

有珠山

○2000年噴火域の全磁力変化

2000年新山域では、噴火終息後も顕著な全磁力変化が継続している。この地域では、NB火口付近の約500m深と、北西側地熱地帯のごく浅部にそれぞれ帯磁源が推定されている（図2の★印）。磁気点NYCは、主に前者の帯磁源に関わる温度変化（冷却）を反映していると考えられる（図1）。2008年以降、変化は鈍化しており、噴火終息後の放熱活動が衰退しつつあることと調和的である。

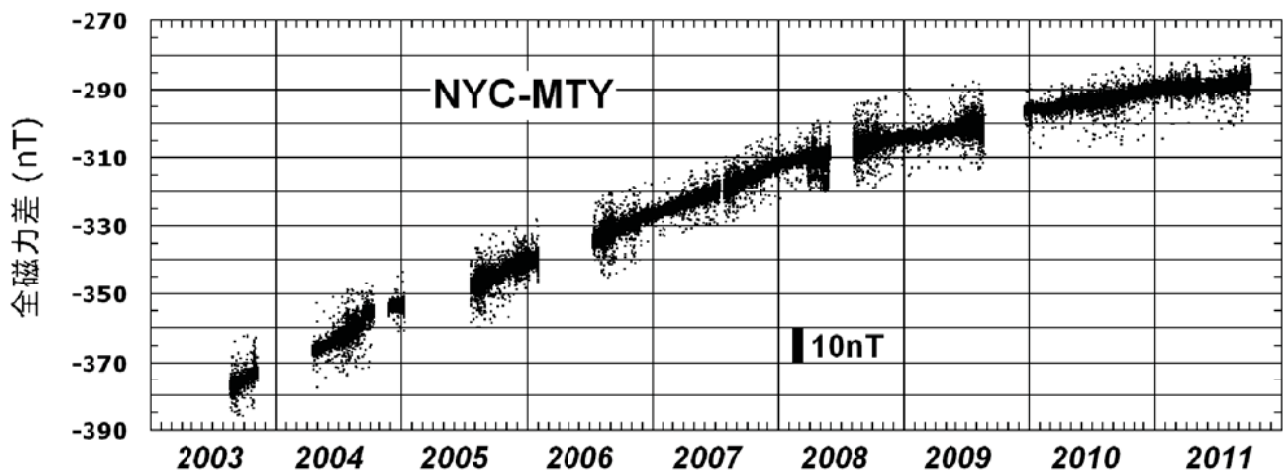


図1. NB火口南側の磁気点NYCにおける全磁力変化。MTYを参照点とした毎5分単純差。

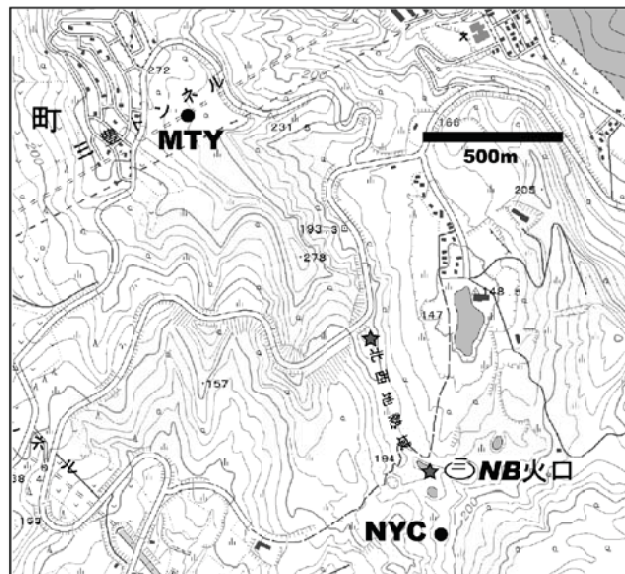


図2. 連続観測点の位置。MTYは参照点。★印は地磁気変化（繰り返し測定）から推定されている帯磁源の位置。本図の作成には、国土地理院のオンライン地図画像を使用した。